

# おぼろ

## サンスポ

性病への警鐘が鳴らされてい  
る。梅毒など過去の病気が、息を吹き返しているという。安全なセックスのために、どう対策をしていけばいいのかわからない。新宿歌舞伎町で開業し治療に従事している、「新宿東口プライマリケアカリニック」の大林王司院長に写真に聞いた。



梅毒感染者1万人超!! 性感染症の蔓延に危機感持つて

### 大林院長に聞く



今、性病の最前線

はどうなっているの  
「梅毒、淋菌、クラミジアといった性に関するシ

写真 新宿東口プライマリケアカリニック（東京都新宿区新宿三丁目23ノ12 新宿パンドラビル6F）。

た感染症が確実に増えています。特に梅毒は2022年に感染者1万人を越え、今年は9月末時点ですでにそれ以上となっています。これらの感染症は、風俗などから感染するもの、という認識がある方が多いかもしれませんが、いまや普通にサラーマン、OLがキャリアとなっている状態です。

「どうして今、梅毒がはやっているの」  
「マッチングアプリの普及や、トー横キッズといわれるような若者たちが知識のないまま性交渉を行ったり、またパパ活ママ活といった性的につ

ながりやすい文化が生まれていることが大きいと考えられます」  
性病はどうやってうつるの  
「特に梅毒は粘膜感染しますので、例えば口の中に傷があると、キスでも感染する可能性があります」  
防御策はどうすればいいの  
「コンドームはセックスの最初から最後までしっかりつけること。感染したら、できればパートナーと自分両方が陰性証明が出るまで治療することが大切です。梅毒は症

状が途中で消えますし、淋病やクラミジアは、女性の場合症状が見えにくいです。自分の判断で、治ったつもりしていると、パートナーへの感染を繰り返してしまふ、ピンポン感染という状況になりかねないからです」  
読者にメッセージ  
「江戸時代のような死に至る病ではありませんが、正しい知識がないと危ないことは変わりません。ぜひ専門医に相談してください。当院は夕方6時から10時まで、土日も診療しております。少しでも心配でしたらいらしてください」（来栖）